

# 戦前とそっくり戦争国家化 天皇キャンペーン

## 日刊 動労千葉

1988.10.11

No. 2904

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二二七二〇七

### JR・鉄道労連の天皇制攻撃弾劾！

天皇の重体＝死の切迫を前にして、異常なまでの天皇キャンペーンが吹きあれている。朝鮮・アジア侵略戦争の最高責任者＝戦犯・天皇ヒロヒトの死をめぐる、政府・自民党＝竹下政権は、日本全土を天皇制キャンペーンでうずめつくし、戦争国家化の攻撃を一層強めようとしている。われわれは、こうした戦争にむけた国内支配体制づくりとしての天皇制キャンペーン・天皇Xデー攻撃を許さず、たたかいぬかなくてはならない。とりわけ、JR内においては、天皇が死亡したらその日から三日間、「喪に服するため」と称して様々な攻撃が策動されている。JR当局＝鉄道労連革マルと一体となった天皇制攻撃を許さず、断固たたかう！

#### 戦犯・天皇を糾弾する

そもそも、天皇（制）とは何なのか。明治以降、日本が資本主義＝帝国主義として確立していくなかで、天皇に絶対的な権力をもたせることをもって国民を侵略戦争に動員した。

特に、「昭和」に入り朝鮮・中国・アジア侵略戦争へと突入することで、数千万のアジア人民を殺りくし、又、オキナワ、ヒロシマーナガサキをはじめ数百万の日本人を死においやった責任は一切天皇にあるのだ。

#### 異常な天皇キャンペーン、「自主規制」の名の下での翼賛運動！

そうした状況のなかで、あたかも天皇が「平和主義者」であるかのようにいいながら「天皇の死を悲しむことが、国民の義務」とでもいうかのよう報道がマスコミによって流されている。TVは娯楽番組を中止し、天皇報道を夜どおし行い、各地の祭りやカーニバルは「自主規制」の名のもとにとりやめ、学校の運動会では花火や音楽がとりやめになっている。

#### JRの天皇制攻撃！

JRにおいては、天皇が死亡したらその日から三日間、「厳粛な気持ちで行動すること」としてネクタイは「黒またはこれに準ずるもの」を着用する、「日の丸掲揚」については「大正元年」七月三〇日発布の「閣令第一号」にもとづき行い、天皇が死亡した時、駅及び車内において放送を行い乗客に知らせる、としている。

また、一説には「皇居への弔問客」のために、「終夜運転」を計画しているとされているが、その運用を休日の乗務員の呼び出しと、泊勤務の仮眠時間を削減し、乗務員を一睡もさせずに行わせようというのだ。しかも、その計画すら労働組合には一切明らかにしないのである。まさに、天皇の死は「非常事態」であり、「労働条件など云々するなどは『非国民』である」とばかりの「国家総動員」なみの攻撃である。

こんな凶暴な攻撃は絶対に許さない。こうした攻撃を唯々諾々と容認することは、産業報国会への道、戦争への道である。鉄道労連の積極加担を許さず、反撃を！

### 36の一方的押し付け弾劾

#### 36協定の破棄について

36協定は、「労基法」第36条の定めにもとづき、労使間の協定締結によって、使用者（会社）が労働者（組合員）を時間外および休日に労働をさせることが出来るものである。

特に、JR東日本は、協約の有効期間を一年でなければ締結しないと提案を行ってきた。

そもそも労働協約の有効期間は、法的に最大三年となっており、有効期間については、労使で決めるべきものであるにもかかわらず、会社側は、一方的に一年でなければ締結しないという暴挙のやり方は絶対に容認されるものではない。

この間、JR東日本は、会社の考え方を一方的に押し付け、労使対等を否定し、団体交渉を形化してきたところである。

動労千葉は、こうした状況に対し、36協定は月単位で締結すべきものであり、会社側の考え方を一方的に押し付けるべきではないと対立した。

この結果、会社の考え方を受け入れなければ、無協定でも良いとしたため、10月1日以降、36協定について、無協定の事態になった。

われわれは、会社側から労働者に対し、休日労働、時間外労働を拒否したものであり、今後、こうした理不尽なやり方に対し、現在の劣悪な労働条件下で、要員が切迫した現実にもまえ、非協力ををもって対抗手段として勝抜いて行かなければならない。（関係支部は、幕張、木更津、館山、勝浦）